令和４年度　青梅市立新町中学校　学校評価シート

※具体的な方策⑥の内容は別途（アンケート項目のみ）

＜学校経営方針の重点＞　自分と人類の幸福創造する人材の育成の視点（Agency 教育【OECD　LearningCompass2030】）に立って新町中教育目標に迫る。
１　進んで学ぼう　　２　美しい心を育てよう　　３　たくましい体をつくろう（未来を拓こう）

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者　評価記入欄 評価	学校関係者　評価記入欄 コメント	学校の見解と今後の方向性
進んで学ぼう	Agency 教育に基づく自立的・対話的で深い学びの実現	【学習指導力の向上】授業改善でなく授業改革を進める。失敗を恐れず果敢に挑戦する。	①OJT による研究授業を全教員が行い、新しい授業スタイル「自立的・対話的で深い学び」を提案する。	B 2.9 72.5%	今年度から始めた方法であり、推進方法に課題がある。	OJT でも模範授業の視点を入れる。Agency 自体の共通理解を図る場の構築が必要である。	B	・初年度の取組みとしては素晴らしい。 ・教員がＯＪＴによりスキルをマスターすることはよい取組み。 ・初年度なので今後に期待。 ・研究授業が増え、教員の負担が増えるのではないか？　ベテラン教員の責任も増し、少し心配である。	教員の負担増については、すでにこれまでも行われている管理職の授業観察（年２回、※若手教員は年３回）と関連付けて行うことで理解が得られた。今後も推進していく。」
			②ICT の活用、大型モニター、タブレットパソコン使用の日常化（週 3h 以上ある教科は週１回以上、それ以外は２週で１回以上）	B 3.2 80%	8/29 に ICT 研修を行った。後半に入って使用頻度が高まった共有機能の活用については、一部の教員にとどまり、課題が見られる。	学力向上のためのツールとして位置付け、使用頻度を更に上げる。	B	・勉強の効率でも将来の仕事においても重要なツールで意義深い。 ・使用頻度の更なる上昇を図りたい。 ・今以上にＰＣの使用頻度を上げてほしい。 ・ＰＣ操作が苦手な生徒へのフォローアップも必要。 ・ＩＣＴの導入、利用が教育の中で生かされている。 ・学力のみならず、ＩＣＴ機器の操作向上を図っていただきたい。 ・新しいものは沢山活用して、教員の負担が少しでも減るようにしていただきたい。	ＩＣＴ利活用の日常化はこれまで以上に進めてほしいとの意見が多数であった。来年度は使用率の数値目標は増加させるとともに、教員の働き方改革の観点からもＩＣＴ利活用の推進を進めていく。
			③考え議論する道徳の授業、道徳授業地区公開講座（テーマ「いじめ防止」）を核とした授業づくり	B 3.1 77.5%	生徒は、保護者、教員以上に高い評価を示した。 生徒 3.4，保護者 2.9，教員 3.0 青梅市教委教育法務相談員弁護士の講話もいただき、法的ないじめの認識も高まった。	次年度は A 評価になるよう、一層考え議論する道徳を、道徳授業地区公開講座ではいのちの大切さに迫れる内容を追究する。	A	・ハラスメントの意識が高まる効果が望め、社会に出るためにたいへん重要である。 ・道徳は人間形成に重要である。 ・「いじめ」の具体的な例を挙げ、より身近な問題として生徒と議論の場を作ってほしい。 ・学生本人が考え、行動させる方法はよいことである。 ・いじめばかりでなく、不登校も理由等分析して、心の問題や考え方等も発信するとよいと思う。	いじめ認知件数の減少が、３学期に入って認められたことから、学校関係者評価ではAをいただくことができた。これに甘んじることなく道徳の授業を中心としたいじめ防止の授業を推進していく。
美しい心を育てよう	Agency 教育に基づき VUCA&Diversity&&Inclusion 時代に生きる力を育成する。		④Agency を引き出す校則の見直し、生徒の参画、保護者の理解を得て校則を R5.4.1 付改定する。（第１段階）	B 3.0 75%	生徒の評価は 3.4 で関心が高い一方、教員は 2.8。保護者 3.0 で低い。改定に向けて生徒の真剣な議論が交わされているので大人は支える必要がある。	文科省生活指導提要改訂を受け、校則も生徒が自分事として理解して自主的に校則を守るような指導の転換が必要である。引き続き改定に向けて取り組む。	A	・校則の改定に生徒から取り組むことは Agency 教育の本懐であると考える。 ・校則を見直した後に評価し問題があれば見直すなど、PDCA サイクルが発展すると思われ、持続的な生徒の発展が望める。 ・引き続き改定に向けて議論する中で、取り組んでほしい。 ・生徒参加型で進めているのが良い。広い意味での社会の決まり等の原点の問題でもあると思う。 ・校則を生徒も一緒になり考えることはよい。 ・生徒を中心に進んでいる。 ・今までも主体性・協調性を身につけるような指導されてきたと思うが、一歩先を行く教育に保護者、教員もまだ追いついていないように思う。もっと理解してもらうよう努力してほしい。	３月１０日に校則改定に関する臨時生徒総会が開かれ、生徒会本部の校則改定案が議決・成立した。これを校長の承認により、本校はじまって以来の校則が生徒の手によって改定された。また、来年度も服装等に関する改定に着手着することの両方が評価され、A評価をいただいた。今後も生徒と学校の利益が共有される校則づくりを目指していく。
			⑤いじめ・暴力・自死ゼロを目指し、命や環境の大切さを実感する教育を推進する。（ボランティア活動、セーフティ教室、生徒会いじめゼロ運動、いじめ等をテーマにした道徳授業地区公開講座等）	B 3.2 80%	生徒の評価 3.1、保護者 3.1、教員 3.2 で、３者が均衡して比較的高評価をしている。ボランティアの参加率は多い時で 27%程度である。セーフティ教室で １ 年は SNS、２ 年は SOS、３年は薬物乱用防止を実施した。	ボランティア活動や、いじめゼロ運動は定着してきているが、ボランティア活動では参加率を高めていく必要がある。	B	・ボランティアの参加率が低いと思われるが、コロナの影響であろう。セーフティ教室やいじめに対する取組みは素晴らしい。 ・現状では校外でのボランティア活動は難しい点があるが、ぜひ取り組んでほしい。 ・「コロナ禍」で難しい所もあるが、より広くボランティアの場を模索してほしい。 ・ボランティア活動を通して、社会性を身に付けさせることはよいことだ。 ・集団での行動は、人間性、社会性を高めるのでよい。 ・今コロナでボランティア活動が思うようにできないと思うが、小さなボランティアでも積極的に取組んでもらいたい。いじめゼロ運動も生徒たちが一生懸命に活動していると思う。	コロナ禍が終息に向かっていることから、ボランティア活動への参加率を高めることに期待を寄せていることが分かった。コロナ禍の中、見合わせてきた、校外ボランティア活動を徐々に復活させ、地域に貢献する同活動を推進していく。
			⑦長期欠席生徒に対し、年間シートに基づく支援を行う。１週間 １ 回の家庭訪問、学習支援の視点を重視する。	B 3.1 77.5%	５日以上の欠席者には家庭訪問等を行うことに努めた。また、別室指導、オンライン授業、ＳＳＷとの連携強化等を図った。	今年度から年間シートを活用してアセスメント、家庭訪問等を定例化できたので、継続していく。また、別室指導や他機関との連携等も継続して支援を充実させる。	B	・将来的な社会からの孤立を防ぐ意味で重要。個々に合う形を模索し実践している姿勢が伺える。ぜひ取り組んでほしい。 ・非常に難しい問題であるが、継続して取組んでほしい。 ・週１回の家庭訪問及び学習支援は担当教員の負担が大変かと思うが、ぜひ継続願いたいと思う。同時に、なぜ長期欠席になったのか？（広い意味でのいじめがあったのでは？）原因（遠因）の把握も必要かと思う。不登校者が登校した場合のフォローの方法も生徒と共に考えてほしい。 ・不登校生徒を減らすため、いろいろと試してほしい。 ・地域の方を頼ってもよいと思います。（こども未来とか）	今回の学校関係者評価で、一番関心の高かった項目となった。中学校だけでの対応では限界を指摘され、小学校や地域との連携強化を図るよう助言をいただいた。来年度は小学校や地域との連携を模索し、様々なオプションを設け、生徒の居場所づくり、学習等の支援の強化を図っていく。
たくましい体つくろう（未来を拓こう）	自分と皆の幸福を創造する。		⑧青梅学を通して理想とする青梅・日本・世界を創造する。	B 3.2 80%	３年間の青梅学に発展させた初年度に当たり、目標の共有等に課題があったが、スキー教室では長野県や上田市と青梅を比較した学習ができた。	３ 年間の青梅学の視点をもって、２年校外学習・職場体験、３年修学旅行を行い、３年で理想とする青梅を構想させる。	B	・地域があってこその学校であり生徒であり、それを実践しての教育である。 ・青梅市には素晴らしい所がたくさんあるので見てほしい。 ・青梅は古く歴史のある町で、ある為、古い寺院、城跡、新町開拓の祖・吉野織部乃助の開村文書及び吉野住宅等々、様々な教材があると思うので、深く掘り下げてもよいかと思う。 ・小学６年生対象の体験授業はとても有意義であると感じる。年１回？ではなく毎学期の開催を望む。 ・さらなる視野をもっていただきたい。 ・身近な地域を知ることで、自分の発見ができるかもしれない。 ・地域を知る、将来青梅が好きで、活躍できる人材になってほしい。「青梅学」は素晴らしい。	学校関係者評価では、肯定的な意見が多く、大きな期待を寄せられた。３年間で仕上げる青梅学、そして青梅を切り口にした日本、世界の幸福創造に向けての青梅学に発展させていく。
			⑨自治能力を高める学校行事（運動会、合唱コンクール、宿泊行事、校外学習）、生徒会活動等を行う。	B 3.2 80%	生徒の評価は3.4 で教員 3.1 保護者、3.4 と比較して高い。教員は指導に費やす時間が少ないと感じている。	引き続き自治能力を高める活動を重視し、共通の目標に向かってやり遂げる喜びを味わわせる。	A	・協調性を高める効果が望める。集団と個人が認識できる。 ・厳しい現状だが、実施する必要がある。 ・コロナでなかなか実施ができていない。 ・ぜひ続けていただきたい。	後期に入り、特に１・２年生で実施したスキー教室、全校の取り組みとなっている合唱コンクールを通じて、生徒の自治能力の高まりを学校関係者評価で共有することができた。今後も推進していく。
			⑩９年間を見通したキャリア教育・小中一貫教育の推進（職場体験での小中交流を含む）	B 2.9 72.5%	教員の評価は 2.6 と項目間最低である一方、生徒は 3.5 と最高評価を付け、ギャップが大きい。	今年度は６年生の中学校体験授業ができた。これを基軸に小中一貫教育を進める。キャリア教育の充実で１・２年生で改善を図る。	B	・コロナ禍が終われば活発になると思われる。それに向けての布石として効果がある。 ・実施を推進してほしい。 ・小中の教員の考え方等、これまで以上の連携をお願いしたい。	この項目においても、学校関係者評価委において小・中の連携強化について求められた。体験授業等の回数を増やすのは教育課程上難しいが、部活動体験の復活も視野に入れて充実を目指していく。

●評価基準　９０%以上達成Ａ、　７０%以上達成Ｂ、　５０%以上達成Ｃ、　５０%未満Ｄとする。　●自己評価方法　※保護者及び生徒アンケートも加味し、評価する。（教員５０%、保護者２５%、生徒２５%）